

DASH!!

No.7

2015.9.15

発行：日高地方本部青年部
発行責任者：高木 理加
(全道庁日高総支部)

みんなで走りつないだ『平和の火』

7月29日～30日、日高町からえりも町までの管内7町で平和の火のトーチを掲げて走りつなぎ、核廃絶と戦争のない平和な世界の実現をアピールしました！



↑利尻からスタートした平和の火を美瑛からつなぎました

平和の火リレーって？

1982年にヒロシマの青年たちにより始まりました。広島市の平和記念公園に燃え続ける「平和の灯」をトーチに掲げ、「非核自治体宣言推進」などを訴えながら走りつなく取り組みで、その後、全国に広がりました。北海道では、1988年から取り組まれ、昨年の第27回には約1万人が参加しました。

* 1日目 *

日高町(日高) ~ 平取町 ~ 日高町(門別) ~ 新冠町 ~ 新ひだか町(静内)

日高町(日高)



平取町



日高町(門別)



新冠町

日高町役場総合支所前で出発集会を行い、日高町・工藤副町長から激励のあいさつをいただき、スタート！！

リレー参加者は、「Avante! No more Hiroshima, Nagasaki, Fukushima(進め！／ヒロシマ、ナガサキ、フクシマを繰り返すな)」「核廃絶へ 70周年」と書かれたオレンジ色のTシャツを着て、一体となって走りました。

新冠町では、野球やサッカーのユニフォーム姿で楽しそうに走る子どもたちの姿も♪

また、JAびらとり前、JALシナ前、レ・コード館前では、「戦争をさせない全国署名」と29日夜開催の「反核平和の夕べ」のピラ配りなども行いました。



新ひだか町(静内)

* 反核平和の夕べ *



↑集会の中では、リレーに参加したランナーの紹介もしました

実際の戦争の状況や戦争体験者のその後の話も交え、憲法が制定されてからうまれた法律と歴史の年表資料を用いた結城先生独自のわかりやすい説明をしていただきました。

安保法制によって、自衛隊が外国で「人を殺せ」「自分が殺される」という事態になる。それは「主権者である我々国民が自衛隊に戦争に行けと言っていることである」というお話もありました。



7月29日(水) 19:00～

新ひだか町公民館で小樽商科大学名誉教授の結城洋一郎先生を講師として招き、『安保法制によって本当に平和な社会になるのか?』というタイトルで講演いただきました。



反核平和の夕べ 事後アンケート

日本の歴史、安保法制によって日本がどう変わっていくのか、アメリカとの関係性について、知識不足であったとの感想が多く、一人一人が「平和」について考える必要があると思うという感想も目立ちました。

また、原発の危険性について改めて感じたという感想もありました。

* 2日目 *

新ひだか町(三石) ～ 日高振興局 ～ 浦河町 ～ 様似町 ～ えりも町

1日目から平和の火を引き継ぎスタート！
2日目も、平和の火のリレーのほか、コープさっぽろパセオ堺町店、コープさっぽろ様似店前、風の館前での署名活動を実施しました！

おばあさんが署名しているときに、日傘を持ってあげる優しい青年の姿も…(^ ^)

リレー参加者たちは、街宣車の看板とリレーTシャツへそれぞれの思いをペンで書き込みました。平和の火は、無事にえりも町へ到着し、みんなの思いとともに上富良野へ引き継がれました☆

新ひだか町(三石)



日高振興局
浦河町



様似町

えりも町



これからもわたしたちで『平和の火』を灯しつづけましょう！

◎ 日高地区・参加者数 ◎
ランナー：100人
出発・歓迎・到着集会：363人
反核平和の夕べ：103人
署名行動：240筆

▽△▽編集後記▽△▽

今回の写真とても小さいので、誰が写っているのかわかりづらかったのですが、写っている本人は、どんなに小さい写真でもこれは自分だ！とわかつちゃうものですよ…(*^^*) / 高木